



7月農作業メモ



○いもち病、カメムシ、ウンカ対策

早いところでは、6月下旬から出穂が始まっています。ほ場全体に穂が出そろったら、1回目の本田防除を行ってください。今年度より「トライスタークル」の散布をお願いします。また、2回目の本田防除は7日～10日後に「キラップ」の散布をしてください。尚、収穫の14日前までに散布しましょう。
※散布の際は使用基準を遵守し、飛散等がないよう心がけてください。

○収穫までの水管理

出穂期以降は、米の登熟や品質向上を図るために、間断灌水による水管理を行ってください。酸素の補給、根の活力維持につながります。
落水は、収穫に支障がない限り遅らせてください。(収穫前5～7日程度)

○収穫・乾燥調整

早い地区では、7月下旬より収穫が始まります。穂のもみの85%程度が黄色く色づいた頃が収穫の最適期です。
刈り取り作業では、生もみで長時間放置するとムレ米となりますので、収穫後は速やかに通風乾燥を行ってください。高温乾燥は、胴割れ等の発生原因となります。
※籾の乾燥中は、排気ダクト等から籾殻が飛散するため、近隣の迷惑にならないよう心がけてください。
掛け干しの場合は、期間を3～4日程度を目安として、適正玄米水分15%～16%で脱穀してください。尚、玄米仕上げ水分は15%を目標としてください。過乾燥や高水分は、品質・食味を落としますので注意しましょう。



抑制カボチャ栽培



作型	8月			9月			10月			11月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
	○ ← → ○ ○ ← → ○ ←			→								
	播種			定植			誘引・交配・葉散			収穫		

1. 品種 くりゆたか

2. 圃場準備 畦幅は3～4mの高畦ベットを作る。
水が溜まらないよう、額縁明渠を行うなど排水対策を徹底する。
施肥量(kg)

10a当り	N	P	K
基肥	12～15	20～25	12～15
追肥	3	3	3
合計	15～18	23～28	15～18

3. 播種 8月上旬～中旬に直播又は、セルトレー・ポットに播種する。播種量は10a当り1本仕立て1000粒

4. 定植 株間35～50cmで、植穴処理を行い定植。活着するまでは灌水する。

5. 整枝 一本仕立て
本葉が5枚程度展開した頃わき芽を除き、風等で動かないように杭や棒等で固定する。台風が来る場合は、ネットを被せるか、杭等で折れないように固定する。
着果位置は、12～15節程度で、株元から100cmの長さに着果させる。

6. 交配 9月上旬～下旬にミツバチ等や雄花を利用した人工交配により必ず着果させる。
人工交配の場合、朝9時までには終了する。

7. 追肥 1) 蔓が1mほど伸びた時、先端周辺の中耕と除草を行い、そこに待ち肥を行う。
2) 着果確認後にソフトボールより少し大きくなった頃、速効性肥料を施用する。

8. 収穫 着果後55日前後が収穫時期。試し切りを行い、十分熟成されていること(果肉がきれいなオレンジ色。黄色は早すぎる)を確認してから収穫する。

9. 病害虫 アブラムシ、うどんこ病等が発生する為早めの防除を行う。
アブラムシ…本葉4～5枚展開時
【薬剤】モスピラン顆粒水溶剤2000～4000倍 他
うどんこ病…9月下旬
【薬剤】トリフミン水和剤3000～5000倍 他



7月・8月の柑橘園管理

果樹

原口 悠貴
下島営農指導センター
080-2725-7775

1. 病害虫防除

品 種	散布時期	対象病害虫	農薬名	希釈倍数	水10ℓ当たり
温 州	7月上旬～中旬	※アザミウマ類 ※ゴマダラカミキリ	モスピランSL液剤	4,000 倍	2.5mℓ
		黒点病	混用 ジマンダイセン水和剤	400 倍	25 g
	8月上旬	黒点病	ジマンダイセン水和剤	400 倍	25 g
	8月中旬～下旬	チャノホコリダニ ミカンサビダニ	コロマイト水和剤	2,000 倍	5 g
中晩柑	7月中旬	※アザミウマ類 ※ゴマダラカミキリ	モスピラン SL 液剤	4,000 倍	2.5mℓ
		黒点病	混用 エムダイファー水和剤	600 倍	16.7 g
	8月中旬～下旬	チャノホコリダニ ミカンサビダニ	コロマイト水和剤	2,000 倍	5 g
		黒点病	混用 ジマンダイセン水和剤	600 倍	16.7 g
河内晩柑 パール柑	8月中旬～下旬	黒点病 炭疽病(さび果)	オキシンドー水和剤80	800 倍	12.5 g
共 通	7月中旬～9月中旬	ミカンハダニ、サビダニ	パロックフロアブル	2,000 倍	5 mℓ
		ミカンハダニ	ダニオーテフロアブル	3,000 倍	3.3mℓ
		ミカンハダニ、ホコリダニ	スターマイトフロアブル	2,000 倍	5 mℓ
	発生時	カメムシ	スタークル顆粒水溶剤	2,000 倍	5 g
			テルスターフロアブル	5,000 倍	2 mℓ

※アザミウマ類、ゴマダラカミキリはアドマイヤーフロアブル4,000倍も使用可能です。(7月)

2. 施 肥

対象品種	肥料名	施肥時期	10a当たり
デコボン・清見・甘夏・河内晩柑・パール柑	新アグリロング28号	7月上旬	5袋

3. 葉面散布

目的	薬 剤 名	希釈倍数	備 考
果皮強化対策	ジュージーカル 又は バイカルティ	1,000倍	温州・デコボン等

4. 摘果の実施

- 温州みかん…小玉果や病害虫果を中心に摘果し、日焼けしやすい上向き果も摘果しましょう。
- 中晩柑…… 7月中旬までに粗摘果を終わるよう作業を進め、最終着果数の2割増し程度まで落とします。品質の悪い裾成り・内成りから行い、その後赤道部と樹上部の小玉果や傷果を中心に摘果しましょう。
- デコボン…… 結果樹年齢が古い樹や樹勢が弱い樹では早期重点摘果を行い、樹勢の維持を図りましょう。

JA あまくさ畜産部会総会

JA あまくさ畜産部会は6月1日、天草市民センターで2022年度通常総会を開きました。行政、同部会会員やJA役員ら72名が出席し、22年度事業報告、23年度の事業計画など2議案を承認しました。

山下和則部会長は、「習得した技術を大いに発揮し部会内で共有しながら、購買者が好んで買って頂ける子牛生産に努めていこう」とあいさつしました。

高齢者功勞表彰として有明支部 萩原隆則さん、やすえさん 牛深支部 石本ケイ子さんが表彰を受けられました。

熊本県家畜市場の池田春生さんが総会終了後に研修として「市場統合に伴う県家畜市場の情勢について」講演。10月から子牛市場出荷の留意点、購買者が求める血統、発育の説明がされました。

23年度は優良繁殖雌牛への更新と優良子牛の生産を推進し、繁殖技術の向上に努めるほか、家畜伝染病の防疫体制の強化に取り組んでいきます。



萩原隆則さん、やすえさんご夫妻



石本ケイ子さん